

透析室におけるアロマテラピー（ハンドマッサージ） の現状と方向性

長崎腎クリニック 長崎腎病院

○菅 実穂，高木志緒理，白井美千代，橋口純一郎，原田孝司，船越 哲

【目的】

頭痛を訴える透析患者にアロマテラピーを実施し、患者及び看護師の両面から意識調査を行い今後の課題と方向性を検討した

【対象】

3 カ月以上継続する頭痛患者 9 名、介入した看護師 7 名

【方法】

①患者に対して 1 ヶ月間透析中にアロマテラピーを施行し、期間の前後で頭痛の評価及び意識調査を実施。②看護師に対しアロマテラピーに関する意識調査を実施。

【結果】

頭痛の強さは VAS スケールで 6.8 から 3.9 に有意に改善し、鎮痛剤の減少に繋がった。患者からはマッサージによるリラックス効果や、スタッフとの関わる時間が増えた等の回答を得た。一方、介入した看護師のうち半数以上は業務に支障をきたすなどのストレスを訴え、数名は積極的に施行していた。

【考察】

アロマテラピーは頭痛緩和と患者との信頼関係の構築に繋がる可能性があるが、業務繁雑化によるストレスを感じる看護師も存在する。代替医療という性格を考え、今後は興味を持つ者が担当となり介入する方向性を検討している。